



新・ものづくり研究会【提言】

21世紀の社会変革のエンジンになる

報告者 座長 / 山本副代表幹事

はじめに

21世紀は「第3次産業革命」に直面している。デジタルツール(3Dプリンタ等)の普及により、企業体のクローズドなものづくりから、オープンソース・コラボレーションによるイノベーション(情報共有と協働に基づく革新)への移行が始まった。これまでの産業構造とは全く異なるビジネスモデルとマーケットが目前に迫っている。一方、滋賀経済同友会は、2008年「企業と生物多様性」研究会を、2011年「自然に学ぶ経済」研究会を発足し、生物資源の持続可能な活用や自然に学ぶ環境保全型技術開発について研究を重ねてきた。

本研究会では、デジタルツールのインフラとこれまでの研究会の成果を活かし、自然に学ぶ新製品開発、社会貢献と経済活動を両立させるソーシャル・ベンチャーについて研究を行った。とりわけ、新・ものづくり拠点の構築を目指すべく、産学間のネットワークを強化した。

実績

第1回研究会

日時：2013年7月3日(水) 15:00-17:00
場所：コラボしが21 6階 労働福祉セミナー室
参加者数：42名
講師：田口真太郎
星野 敬子(NPO法人アスクネイチャー・ジャパン)
内容：アメリカの「バイオミクリー」と「ファブラボ」の現場報告
～ボストンMIT、サンフランシスコスタンフォード大学、他～
バイオミクリーの第一回国際会議(Biomimicry3.8主催)の報告を通じて、海外動向と最先端の事例を学んだ。さらに、新しいものづくり拠点として注目を集めるMITメディアラボやファブラボ、テックショップでの実践をもとに、滋賀の「新・ものづくり」拠点の中核となるコンセプトを討議した。

第2回研究会

日時：2013年9月6日(金) 15:00-17:00
場所：ホテルニューオウミ2階 会議室
参加者数：103名
講師：下村政嗣氏
(東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授)

研究者 20名

(滋賀県立大学、立命館大学、京都大学、大阪大学、等)

内容：産学連携サロン ～バイオメテイクス、デジタルテクノロジー等に関わる研究者との意見交換会～

「バイオメテイクス：国内外の加速する動向とISO化」と題して、産業に関わる最新動向と産学連携への期待を講演いただき、バイオメテイクス、IT、デジタル・ファブリケーション、地域づくり等に関わる研究者(学生)と交流を深め、「新・ものづくり」拠点創設の可能性を討議した。

第3回研究会

日時：2013年11月30日(土) 15:00-17:00
場所：たねや日牟禮茶屋
参加者数：47名
講師：トッド・ポーター氏(TED×Tokyoの創業者)
ピーターD.ピーダーセン氏
(株式会社イースクエア共同創業者)
内容：「TEDが拓く未来」～オープンイノベーションの可能性と、滋賀における「アイデアのエコシステム」の創造に向けて～
革新的な発想が発表される場TEDxTokyoの実践例を紹介いただき、オープンイノベーションを生む、滋賀の「アイデアのエコシステム」づくりについて討議した。地域の独自性、多様性、キーパーソン、ネットワーク等のキーワードが挙がり、具体的な「場」と「手法」のイメージを共有・検討した。

提言

【目標】自然に学ぶ持続可能性

自然は人間界よりはるかに小さなエネルギーで運営され、完璧な循環を保っている。この低環境負荷かつ高度な機能に学び、ものづくり(商品・サービスの開発)やまちづくり(地域の活性化)に多重的に応用することで、持続可能な滋賀の産業と社会を創造することを目指す。

【方法】クラウドソーシング工房

さまざまな機材（3D プリンタ等）や情報を一般の人が利用できる、オープンな市民工房をつくる。所属や専門を超えてアイデアや試作品を共有し合い、工房で改良を重ね、イノベーションを起こす場所である。ものづくり・ことづくりの舞台は、専門家や専門機関から、無数の個人による協創へ移行する 21 世紀を体現する。

【基盤】アイデアのエコシステム

滋賀の課題を抽出し、自然の知恵をその解決策に活かすためには、広範囲の連携が不可欠である。さまざまな分野（生物学、工学、経済、教育、芸術等）と、それに関わるさまざまな主体（大学、企業、自治体、NPO 等）が手を携え、発想を出し合い、実践を重ねるためのネットワークが必要である。オンラインを用いて世界とのネットワークも強化する。

「滋賀らしさ」の源泉とも言える自然が人の生活に溶け込んだ歴史・文化を背景とし、自然模倣技術の先進的な取り組みを行ってきた滋賀県において、アイデアのエコシステムを基盤としたクラウドソーシング工房をつくり、自然に学ぶ持続可能な滋賀の産業と地域社会を産み出す拠点を創造したいと考えている。

